

東京農工大学

## 科学博物館ニュース速報



No. 34, February 1

第34号 2018年2月1日

館長からのメッセージ

## 就任初年度を振り返って

▶高木康博（科学博物館長、工学部・工学府教授）

科学博物館長に就任して、ほぼ1年が過ぎました。今まで何とか務めることができたのも、皆様のお陰であったと心より感謝しております。

私が就任直後にニュース速報（29号）に書いた就任挨拶を見ると、「科学博物館は、①博物館本来の機能、②大学の情報発信、③地域への貢献の3つの役割がある」と書いています。今でも考えは変わっていませんが、それぞれについて、この1年間を振り返ってみたいと思います。

①は伝統の継承と言い換えることができます。これについては、岡谷蚕糸博物館との協定締結と、工部省勸工寮葵町製糸場図面の再発見と資料公開をあげることができます。前者については、平成30年度に協定締結を記念して共同企画展を開催することにしました。後者については、読売新聞全国版で取り上げられて話題になりました。また、府中キャンパス内に分館を整備し公開しました。

②の大学の情報発信については、企画展として「人とロボット 未来のカタチ」（5月27日～9月9日）と「馬と獣医学」（11月21日～3月20日）を開催しました。前者は、博物館が主体となり、工学部の関連する学科に協力して頂き開催したものです。約3か月の間に約6千人の方にご覧頂きました。この中で、新しい試みとして、大学の研究者と市民が語り合うサイエンストークを行いました。本館

での展示終了後に、三鷹ネットワーク大学との共催企画展にて継続して展示を行いました。後者は、農学部獣医学科が主体になって企画したもので、引き続き3月末まで開催予定です。期間中に講演会やミニチュアホースとのふれあい体験を通じて、多くの方楽しんで頂いております。

③の地域への貢献については、国際博物館の日関連イベント、サマーフェスタ、子供科学教室などがあげられます。いずれの場合も、昨年度より大幅増の参加者があり、大変好評でした。

博物館の3支援団体であります友の会、繊維技術研究会、学生団体mussetの活動も活発でした。それぞれの普段の活動に加えて、上記の博物館でのイベントでの講習会、実験教室、動態展示など博物館の活動に積極的に貢献してくれました。

さて、本年度最後のニュース速報になりますので、来館数についてご報告します。表1に本年度の来館者数を示します。参考として、表2に昨年度の場合を示します。昨年度とほぼ同じ水準で推移していることがわかります。ただし、本館の目標年間来館者数である3万5千人にはまだまだ遠く及びません。月別に見ると、企画展のない月の落ち込みが大きいです。そこで、来年度は、企画展2回と特別展1回を開催することを予定しております。

最後になりますが、一年間、科学博物館の活動にご支援を賜り、ありがとうございました。来年度も、当館の活動を引き続きご支援頂きますよう、お願い申し上げます。

表1：今年度と昨年度の月別・累計来館者数の比較。

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今年度	来館者数	1,434	1,817	2,171	1,807	1,975	1,497	1,452	2,109	1,802	1,151	3,779	-
	累計	1,434	3,251	5,422	7,229	9,204	10,701	12,153	14,262	16,064	17,215	20,994	-
昨年度	来館者数	1,173	1,264	2,212	1,587	1,808	2,000	1,943	2,346	1,584	1,123	3,611	1,126
	類型	1,173	2,437	4,649	6,236	8,044	10,044	11,987	14,333	15,917	17,040	20,651	21,777

## 農学部分館日より 分館がリニューアルされました

▶横山 岳（科学博物館副館長、農学部・農学府准教授）

農学部本館が改修され、新たに科学博物館分館もリニューアルされました。これまで農学部分館は年に1回、学園祭時（11月第2週週末）のみ開館されていましたが、リニューアルに伴い、平日9時から17時まで開館されています。本館と同じく入館料は無料です。場所も時計台の下（3F）から2階東北の部屋に移動になりました（入口の階段を登って右奥になります）。諸事情により案内板が設置していませんでしたが、昨年（2017）11月末に本館正面玄関に案内板をようやく設置することができました。農部にお越しの際は是非、分館にもお寄りください。



本館正面玄関入口の案内板



分館入口

## 特別展第36回サークル作品展好評開催

▶齊藤有里加（科学博物館特任助教、学芸員）

2月3日(土)～ 2月10日(土)の一週間、今年もサークル作品展が開催されました。1月下旬には関東地方は大雪となり、その後も記録的寒波で48年ぶりに氷点下4.0度まで下がりました。寒い冬にもかかわらず、期間中来館者2894人の盛況ぶりで参加者の皆さんの熱意が伺われる一週間でした。

ここ数年の来館者傾向を見ると、他で経験を積まれている方が話を聞いて技術交流のために見学にこられるケースを多く拝見します。今年も展示室においてご自身の作品や、関連する書物を見せていただくことができました。各サークルそれぞれ作品が綺麗にレイアウトしてありますが、特に目を引くのが作品のラベルに細かいデータや、解説文が添えられていることです。机の上に置かれていた細かいデータの冊子には、1年間の探究の成果がぎっしりと記されていました。単にこちらの作品を見る場ではなく、年に一度の技術交流の場となっていることが、会場の活気に繋がっているようです。



会場内の様子です。毎日400人を超える入館者で会場は熱気に包まれていました。すべてのサークルを回ると2時間以上かかります。



ひもむすびサークルさんの作品です。これだけの紐結びのバラエティがあるのかとじっと見とれてしまいます。

また、今年も南相馬市からの作品が展示室に飾られていました。サークル活動で培った技術がこのように遠方でお役に立てていることが大変嬉しく感じられます。

サークル作品展の準備で手間がかかるのが、展示物品の準備・設営作業です。皆様本当にお疲れ様でした。特に展示物品ご担当の皆様は一つ一つ道具を丁寧に数えて準備をされ、本当に大変だったかと思えます。設営が短いに関わらず、あっという間にレイアウトが完成していくのは普段の皆さんのチームワークのよさを感じました。

この楽しく、熱心な雰囲気を大切にしながら、サークル作品展を今後も盛り上げていきたいと思えます。



手つむぎサークルさんの刈った羊の毛です。各部位からとった毛のサンプルは見比べると毛質の違いが分かります。



毎年恒例になりつつある南相馬市さんからの藍染の作品です。福島でも活動が続いているようですね。

## musset活動報告

### 2018年度の飛躍に向けて

▶高橋雅大（工学部機械システム工学科3年）

厳しい寒さも和らいで、徐々に春の陽気が近づいています。新年度に向けて、mussetも二つの企画にチャレンジしてスタートダッシュを図ります。

まず3月21日(水)に小金井市・江戸東京たても園で行われる「たても園フェスティバル」にて、「絹のひみつをみてみよう」と題した科学教室を出展します。昨年もたても園フェスティバルには参加しており、2年続けての出展となります。今年も前回同様、絹の繊維の物性や構造について観察や模型を使った解説で視覚的・直感的にわかりやすい教室となるように準備しています。また今回は、園内での開催場所が、かつて製糸会社を営んでいた実業家が建てた「西川家別邸」であることにちなんで、煮繭や精練といった絹糸の製法にも触れていく予定です。

もう一つの企画として、3月24日(土)より「サイエンスマルシェ」を開催いたします。これは、mussetが6月までの月イチ企画として行うもので、毎月一回異なる科学のテーマを取り上げ、誰でも楽しめるようなサイエンスイベントとして構成します。3月は上記たても園フェスと同じく「絹」を取り上げます。4月は「凍る」、5月は「家電と技術」、6月は「化学分析」をそれぞれテーマにとりあげます。入場無料・予約不要ですので、「このテーマはちょっと興味があるぞ!」と思ったら気軽にご参加下さい。1回30分程度で、少しだけ世界を視る目が変わる体験ができるかもしれません。

進級・就活など春はステップアップの季節です。今年度の締めくくりとして、メンバー丸となって実りある企画となるよう準備をしていきますので、どうぞよろしく願い致します。



「サイエンスマルシェ」のチラシです。メンバー一同頑張ります!

## 次回企画展のご紹介

---

▶飯野孝浩（科学博物館特任助教・学芸員）

4月から、企画展「リアル？バーチャル？未来へ飛び出せ！3D」展を開催致します。3D映画やテレビはもはや一般的なものになり、3Dプリンタを使う機会も増えてきました。本学でも広く3Dをテーマとした研究が広く行われています。一方で、3D表現の歴史は古く、19世紀にはすでに現在のヘッドマウントディスプレイの原型が発明されています。これまでの、そして未来の3D技術について学んでいただくため、3D技術を楽しく・ディープに学ぶことができる企画展を企画しました。学内の先生方に加え、学外の諸団体にも協力を依頼し、特に親子連れや先端技術に感度の高い層を対象とした企画となっております。現在、鋭意展示準備中です。詳細はまた次号でお伝えできる予定です。さあ、3Dの世界へ飛び込んでみましょう！

### 「科学博物館ニュース速報」第34号

発行日：2018年2月1日

編集：科学博物館ニュース速報編集委員会

発行：東京農工大学科学博物館

連絡先：kahaku@cc.tuat.ac.jp、042-388-7163

**「科学博物館ニュース速報」 第 33号**

発行日：2017年12月26日

編集：科学博物館ニュース速報編集委員会

発行：東京農工大学科学博物館

連絡先：kahaku@cc.tuat.ac.jp、042-388-7163